



ヒヨドリ 食害深刻

葉物野菜中心に「過去最悪」

異常気象、山の餌減少か

県内でヒヨドリによる農業被害が相次いでいる。キャベツやホウレンソウなど露地の葉物野菜を中心に確認されており、丹精込めて育てた農家からは「ほぼ全滅で商品にならない」「追い払ってもすぐ戻ってくる」と恨み節が聞かれる。他県でも食害の増加が伝えられており、野鳥に詳しい関係者は「夏の酷暑と冬の厳しい寒さで山中の餌が少ないためでは」とみている。



ヒヨドリに食べられたキャベツの被害状況を確認する
松原ファームの松原真友さん(33歳)、国東市安岐町

「過去最悪の状態」。今月3日、松原ファーム(国東市安岐町)の松原真友さん(40)は、荒らされた収穫前の加工用キャベツを眺めながら肩を落とした。約1・6秒に植え付けた多くが外側の葉を食べられており、中もつつかれて商品にならないという。

ヒヨドリは2月中旬ごろから増えたとい、この日も50羽近くが飛来していた。人が近づくと逃げもの、またすぐ戻ってくるため「追い払つのは困難」。防鳥ネットも土地が広く、効果的に張るのは難しい。キャベツは天候不順による生育不良で流通量が減っており、需要が高まっている。



キャベツ畑に飛来したヒヨドリの群れ

と、県内ではこれまでもヒヨドリの農業被害は出ていたものの、今年に入ってから深刻になっている。宇佐、中津両市などで葉物野菜の大きな打撃が報告された。九州は鹿児島、宮崎両県などでも発生している。

日本野鳥の会大分県支部の衛藤民子さん(70)は「大分市」によると、ヒヨドリの飛来数はデータがなく、例年より増えているかは分からない。「ただ、會員から家庭菜園の野菜を食べられたとよく聞く。昨夏の猛暑、冬の厳しい寒さで餌となる山の木の実が少なかった可能性があり、人里まで出てきているのでは。暖かくなるまで続くかもしれない」と注意を呼びかけている。

(清松俊明)



ヒヨドリ

スズメ目ヒヨドリ科で体長約30センチ。日本野鳥の会県支部の衛藤さんによると、県

内では一年を通して見かけるものの、一部は夏は山地、冬は平地と季節によって生息地を変える。食べ物は昆虫、果実や木の实、花や蜜、野菜など。



〔問①〕 ヒヨドリによる農業被害が深刻です。特に被害に遭っている野菜は？

〔問②〕 食害の増加の原因はと考えられますか？

〔問③〕 ヒヨドリなど野鳥の農業被害について、原因や対処法、私たちがすべきことなどを話し合おう。